

対談 中学生×福祉のプロフェッショナル

社会を支える 福祉の仕事

2021年夏、徳島県福祉人材センターアイネットは、県内の小中学生を対象に「社会を支える福祉のお仕事作文」を募集しました。そして、福祉の仕事についての知識をより深めてもらいたいとの思いから、作文を応募してくれた徳島市立津田中学校1年生の丸岡優衣さんと徳島県社会福祉法人経営者協議会*に所属する福祉のプロフェッショナル2名による対談を企画、2月24日に開催しました。「社会を支える福祉の仕事」について実りある話がありました!



丸岡さんにお聞きします。「社会を支える福祉のお仕事作文」に応募しようと思ったきっかけは何ですか?

丸岡さん おばあちゃんが介護施設に入所していて、調子が良くなったと聞いて家族みんなで会いに行ったんです。すると、おばあちゃんはすごくニコニコしていて、「介護施設ってすごいな!」と思って、書いてみようと思いました。



作文を書いたことで、福祉の仕事についてどんなことを学びましたか?

丸岡さん 「介護施設の大切さ」というテーマで作文を書いたことで、介護施設のことがよく分かりました! でも、他の福祉の仕事についてはまだよく分かりません。

吉田さん、保岡さん、福祉の仕事について教えてください。

吉田将昭さん 介護福祉士や保育士、社会福祉士といった職種の人が働いていて、主に対人援助を中心に担う仕事です。やりがいを感じられる場面がたくさんあります。私が福

祉業界に就職したとき、高齢の方向けのデイサービスセンターで働くことになりました。人生の先輩からいろんなことを教えていただき自身の成長に繋がりましたし、利用者さんやご家族の方から笑顔で「ありがとうございます」といった感謝の言葉をいただくと、「この仕事に就いて良かったな」という気持ちになりました。

保岡さん 僕が「福祉」という言葉で大事にしているのは、福祉=介護、福祉=障害、福祉=保育ではなく、福祉ってすべてのことを指す言葉なんです。人を支えるための仕事が福祉の仕事で、僕は「普通に暮らせる幸せ(㊦ つうに ㊧ らせる ㊨ あわせ)」の頭文字をとって「ふくし」って呼んでいます。丸岡さんは、エッセンシャルワーカーという言葉を知っていますか? エッセンシャルには本質的って言う意味があって、どうしても世の中に欠かせない、人間が「普通に暮らせる幸せ」を手に入れるために、とってとって必要な仕事がエッセンシャルワーカーです。それが僕らがやっている仕事なんです。それなのに、「福祉のお仕事ってなあに?」って聞いたときに、給料が安いのでは?とか、暗い仕事というイメージを持たれていて、3K(汚い・きつい・臭い)と言われてたりもするんです。でもやっぱり福祉は必要な仕事。コロナ禍の中でエッセンシャルワーカーという言葉がポーンと表に出てきましたよね。「福祉の仕事って大切だ」ってことに、世の中がようやく気づき始めたんです。人が生まれたときから亡くなる直前まで僕らは関わっていて、とってと崇高大な仕事なんです。僕は「福祉はほんと



対談企画運営
徳島県福祉人材センター
アイネット
吉田貴史さん

福祉施設ゲスト
あさがお福祉会
保岡 伸聡さん

中学生ゲスト
徳島市立津田中学校
1年生
丸岡 優衣さん

福祉施設ゲスト
健祥会グループ
吉田 将昭さん

*徳島県社会福祉法人経営者協議会…県内の社会福祉事業を行うことを目的としている社会福祉法人でつくる組織です。人権を常に尊重し、福祉サービスの質の向上への努力を重ねるとともに、地域の様々な生活・福祉課題に積極的に対応することで地域共生社会の実現を主導しています。

うに大事な仕事なんだ」っていうことを、いつも職員に伝えていきます。これからはますます福祉が中心となる時代がやってくるので、「福祉ってすごいお仕事なんだよ」と友達にも伝えてもらえたらうれしいですね。



最近の福祉の仕事の現場について教えてください。

吉田将昭さん 作文を読ませていただき、すごくよく介護老人福祉施設の現状について調べられたなという印象を受けました。丸岡さんも書いていますが、待機者が数十万人と非常に多いのが現状です。そのような状況も含めて、今福祉の業界全体で大きな課題となっているのが人材の確保です。そのために欠かせないのが働きやすい職場環境作りであり、業界全体で取り組んでいるところです。例えば介護ロボットというのを聞いたことがありますか? 介護の職員さんは腰痛で悩む方が多いのですが、腰の負担を軽減するスーツを導入し始めています。スマートフォンなどで介護記録がパパッとできるICT化も進めています。働き方

をどんどん変えて、福祉の仕事の魅力を高めて、みんなが働きたいと思う仕事にしたいですね。先ほど「3K」という言葉が出ましたが、私が働いている健祥会では、「感謝・感激・感動」という新しい3Kを作ろうと、お伝えしたような取り組みを積極的に進めております。

これからの目標は何でしょう?

保岡さん 介護サービスも突き詰めていきますが、これまで以上に地域の課題に目を向けて、地域のみなさんの暮らしがより豊かになるサポートをしたいと考えています。制度下にはないような新しい社会課題、例えばヤングケアラーや産後ケアなど、声が聞こえてこない、あるいは見えてこない課題を地域の中で抽出し、それをしっかりと救済していく。それが僕ら社会福祉法人の責務だと思いますし、その責務を率先してやってくつもりです。

吉田将昭さん 個人的な意見になりますが、少子高齢化にコロナ禍と先がどうなるか分からない時代の中で、福祉の仕事に対するニーズや役割がこれからますます大きくなっていくんだろうなと思っています。保岡さんがおっしゃられたように、制度にないような、我々が予想もしないような社会課題が出てくることも想定しておかなければなりません。そのような中で福祉をしっかりと継続していくためには、専門職の人だけではなく、地域の人がいっしょに支え合う世の中になっていくべきだと考えます。丸岡さんの作文の最後に、「社会を支える福祉の仕事はとても大切です。私は、私の周りの困っている人に対して何が出来るかを考えて行動した

と思います」とありますが、まさに丸岡さんのような人がどんどん増えていくように、自分としては福祉に対する思いや考えを広めていくことがこれからの目標です。丸岡さんの作文を読んで、とてもうれしかったんですよ。こんな考えを持つ人がもっとも増えて、一般の人と専門職が連携を図りながらサポートが必要な人を支えていく時代にしたいですね。



丸岡さん、ふたりの話を聞いていかがでしたか?

丸岡さん 作文を書くまでは「福祉」という言葉しか知らなくて、作文を書いてみて、少し分かった気になっていました。でも、おふたりの話を聞いて、福祉には介護施設だけではなく、もっといろいろな仕事があるということや、どういうものなのかを詳しく知ることができました。そして、とても大切な仕事なんだということがよく分かりました!

みなさん、ありがとうございました。

「社会を支える福祉のお仕事作文」をホームページで公開中!

対談に協力してくれた丸岡優衣さんはじめ、徳島県内の中学生から寄せられた「社会を支える福祉のお仕事作文」をホームページに掲載しています。ぜひ、ご一読ください。



徳島県福祉人材センター

アイネット

福祉のお仕事探しをサポート

徳島県福祉人材センターアイネット

徳島市中昭和町1-2 県立総合福祉センター3F TEL:088-625-2040

広告